

市場ワーキング・グループ御中

平成28年5月13日
委員 宮本 勝弘

市場ワーキング・グループの検討開始に当たって

本日のワーキング・グループにつきましては、よんどころない事情で欠席させていただきます。検討開始に当たり、意見を書面にて述べさせていただきますので、よろしくご高配賜りますようお願い申し上げます。

1. 発行体にとっての最近の資本市場

- ・資本市場においては、層の厚い多様な投資家による公正な取引の下での適正な価格形成が成され、発行体の立場からも、主に中長期的な企業の収益性に基づいた企業価値が価格へ適切に反映される事が(当然ながら)極めて重要と認識しています。それを前提に企業価値の拡大に向け企業は日々各種事業計画の実現に向け鋭意努力し、また企業の本源的価値の正確な理解と評価に資する為、IR活動の充実に努めている所であります。
- ・しかし、最近の資本市場において、経済のファンダメンタルズや企業の経営指標を超えて、市場が短期的に急激に変化する等、実態に基づかない或は実態を超えた価格変動が散見され、明らかに従来よりもボラティリティが高まっていると認識しております。これらは経済、マーケット、資金の動きのグローバル化を背景とするものではあるものの、HFTの拡大が一因との分析もなされている所であります。

2. 今回の取組について

- ・勿論 HFT が市場に流動性を提供し、円滑な取引に寄与している面は重要であると認識しておりますものの、その実態が必ずしも透明ではないことが問題の根底にあると思われれます。また HFT については、各方面から指摘されている通り、一般投資家との間の公平性の問題やシステム面でのリスク増大も懸念される所であります。
- ・このような中、欧米各国では取引の透明性を高め事後的な検証を可能とするため、当局への報告体制を整備するとともに、システム面でのリスクを未然に防止しようとする動きが出ており、体制が整備されつつあると認識しています。
- ・世界の資本市場がシームレスに連関し、かつ一体化が進んでいる中、市場間でのイコールフットイング、バランスも重要と考える所であります。世界のマーケットで競争する日本企業としては、欧米市場と何らかの違いがある場合、自らが上場する本邦市場だけがボラティリティの増加に翻弄されるのではという懸念も持つ所であります。したがって、欧米とも課題を共有化しながら、市場インフラの整備へ向けた取組への連携を深め、足並みを揃える事も重要と考えております。
- ・今回、当ワーキング・グループで本件が議論されることは、時宜を得ており、産業界としても、このような場で議論を深め、今後適切な対応に繋がる事を期待しております。

以 上